

2019年度 地域貢献研究助成費 実績報告書

2020年3月30日

報告者	学科名	栄養学科	職名	助教	氏名	井上 里加子
研究課題	重度心身障害児・者の腸内環境についての検討					
研究組織	氏名	所属・職		専門分野	役割分担	
	代表	井上 里加子	栄養学科・助教		臨床栄養	研究の遂行、研究統括
	分担者	入江 康至	栄養学科・教授		薬理学	助言
研究実績の概要	<p>重症心身障害児（者）の推計値は全国で43,000人（2012年）であり、そのうち在宅で生活している人が29,000人とされ、家族による介護が欠かせない状況となっている。重症心身障害児（者）はてんかんや胃食道逆流症などの健康問題を抱えているが、特に便秘が頻繁にある。その原因としては過度の筋緊張亢進、腸管蠕動運動機能低下、抗けいれん薬のような治療薬の影響などが考えられる。便秘により重症心身障害児（者）のQOL低下や、介護者の身体的負担や心理的負担が増加するため、便秘改善の必要性が求められる。先行研究では、健常人を対象にイソマルトオリゴ糖の摂取が、Bifidobacteriumの増加や糞便pHの低下、短鎖脂肪酸の増加、便秘傾向者の排便回数の増加などをもたらしたことから、腸内環境の改善と便通の改善が報告されている。一方、腸内環境との関連も深い腸内細菌叢に近年注目が集まっており、疾患の治療や予防を期待した腸内細菌叢への介入も試みられている。そこで本研究では、在宅重症心身障害児（者）を対象に、イソマルトオリゴ糖を含む米麹甘酒の介入試験を行い便秘症状に着目して検討する。</p>					

※ 次ページに続く

<p>研究実績 の概要</p>	<p>対象は在宅医療を受けている 14 名の訪問看護ステーション利用者であった。被験者は米麴甘酒を 6 週間摂取し、甘酒介入前 (0W)、甘酒介入後 (6W)、甘酒介入 6 週間後 (12W) の 3 点において日本語版便秘評価尺度 (CAS)、ブリストル便形状スケール (BSS)、身体状況調査、簡易型自記式食事暦法質問票 (BDHQ) を実施した。</p> <p>「抗痙攣薬・抗てんかん薬・抗不眠薬」に関する種類が便秘群で多い傾向にあり、先行研究を支持する結果であった。本研究の対象者全体において、また便秘症状を呈する対象者において、6 週間の米麴甘酒摂取により便秘症状が軽減する可能性が示唆された。その後 6 週間後については、介入後と比して変化が見られていないが効果が継続しているかについては、更なる検討が必要である。</p> <p>本研究の対象者全体において、また便秘症状を呈する対象者において、6 週間の米麴甘酒摂取により便秘症状が軽減する可能性が示唆された。また、重症心身障害児 (者) における米麴甘酒介入によって便の形状の変化は高齢者に比べて著しいが、便秘症状についての変化は高齢者の方が大きいことが示された。</p>
<p>成果資料目録</p>	<p>令和元年度 卒業論文 1228005 石原 彩花 米麴甘酒摂取が在宅重症心身障害児者の腸内環境に与える影響</p>